
思春期スイッチ。

乾 弘毅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思春期スイッチ。

【Nコード】

N8198Y

【作者名】

乾 弘毅

【あらすじ】

やたらお金のかかるバレエを辞め、これからは充実した学生生活と安定した進路を目指そうと猛勉強の末に主席で高校に入学した梶川愛。

あのときバレエを続けていたら…、なんて自分にも誰にも言われたくないから、勉強も友達も恋愛も、ぜったいぜったいガンバるのだ、と健気なカンジで生徒会長の伊藤和也の思春期スイッチを連打するお話です。

1. 順風満帆なようで前途多難かもしれない

入学式で新入生代表の挨拶をするという晴れ舞台から梶川愛の高校生活は始まった。

ぜひこの調子で順風満帆な3年間を送りたいと思います。

にやり。

高校生活を充実させるために部活やったほうが良いかなあ、と松村さんと話していたら、たまたま通りかかった中井さんに「新入生代表は創己会に入るんでしょ」と言われた。

ソウキカイ？機会部とかなんか？とは違うよね。

「生徒会執行部。3年間ずっとではないかもしれないけど、1年生の間は創己会所属のはずだよ」

知らなかった。

中井さんは3年生に創己会所属のお兄さんがいるので詳しいらしい。「でも先生にはなんにも言われてないよ」と言ったら、お兄さんに確認してくれることになった。

中井さんによく似た雰囲気眼鏡男子に案内されて創己会室に行くと、そこには3人の先輩がいた。

この4人以外は行事や会議があるときしか顔出さない人がほとんどらしい。

3人の中のひとりは入学式で在校生代表挨拶をした生徒会長の伊藤和也先輩だったのですぐ分かった。

マッチョ系イケメンという名の壁、と記憶したので忘れることはないでしょう。

あとの女子ふたりはまだ覚えられない。

名前は覚えた。

どっちかが副会長の三井香奈先輩でもうひとりが書記の藤井紗英先輩。

中井さんのお兄さんは会計だそうだ。

ところで伊藤先輩の機嫌の悪さがハンパない。

ただ黙ってるだけなのに空気がピリピリして、三井先輩も藤井先輩もずつと腫れ物に触るように接している。

私のせい？なわけないよね初対面だもん。

なんかものすっごいめんどくさいカンジ。

「中井先輩、伊藤先輩の思春期スイッチが押されていて怖いので帰って良いですか？」

小さな声で言ったつもりだったのに聞こえたらしい。それまでそっぽを向いていた伊藤先輩とバッチリ目が合ってしまった。

やばい。

身の危険を感じたのでとりあえず何事もなかったかのように笑ってごまかした後そのまま退室した。

そして人生最速のダッシュで帰宅した。

きつと初めてあった新入生のことなんて次回までには忘れてくれると思います。

2。蝶の夢

お昼休みは学校探検がてらあちこちでお弁当を食べることにしている。

学校通の中井友美ちゃんに案内役をしてもらって、入学試験で仲良くなった松村有里ちゃんと、同じ中学出身の山口美幸ちゃんと食べます。

今日は体育館のステージの端っこ。

体育館は飲食禁止ですが、ステージ脇は人が来ない絶好の隠れ家だそうです。

校内放送もちゃんと流れてます。

「あ。蝶の夢だ！梶川愛、踊ります！」

スピーカーから流れてきたのは、最後のバレエコンクールで踊った曲だった。

幼稚園から始めたモダンバレエは2年ちょっと前まで私の生活のほとんどだった。

8月のイベント公演、9月の発表会、10月の芸術祭、11月の海外公演、12月のクリスマス公演、1月には教室選考があつて、選ばれれば2月からのコンクールが全国までいけば3月末まで続くことになる。

お金がかかっていることは分かっていたけど、ひとりっ子だから大丈夫なのかな？と深く考えたことはなかった。

中1から中2に進級した春休み、お父さんに「話がある」と言われて初めて知った。

私のバレエのせいで家にはもうお金がなかった。

「お前が本気でバレエを続けるつもりなら今後は借金でもなんでもして賄ってやる」そう言ってくれた。バレエ教室をかえても良い、宝塚音楽学校を受験したって良い、でも学生らしい生活のない人生

を選ぶことに後悔がないかだけが気掛かりだ、よく考えなさい。

それまでは、このままバレエを続けながら高校に行って、卒業したらバレエ教室の推薦枠でロシアに留学して、帰ってきたらバレエ教室の先生になるもんだとばかり思っていた。

でもそれはそれでもものすごく贅沢なことで、ちゃんとした考えもなしに選んで良いことではなかったことに、私はそのとき初めて気づいた。

よく考えて、高校生になることにした。

優秀な高校生になって、学生らしい生活もバッチリ堪能して、できれば推薦入試で国立大学に入って、奨学金で薬剤師とか安定感のある職につきたい。

お父さんお母さん見ていてください。愛は2人に後悔はさせませんよ。

バレエは大好き。

でも私にはもつと違う生き方もあるはずだ。

ニーアップをふわりと決めたら足の甲が痛かった。

悲しいような、いっそ清々しいような。

踊り終わって、くるくるとターンでみんなのところに戻ると、おや？人が増えている。

中井真先輩と伊藤和也先輩だ。
がーん。

…ぜったいどつかでパンツ見えてるわー。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8198y/>

思春期スイッチ。

2011年11月25日08時46分発行